

2026年度 北見藤高等学校シラバス

〔教科〕 〔科目〕	〔数学〕〔数学Ⅱ〕	2 年	4 単位	教科書	最新 数学Ⅱ (数研出版)	副教材等	なし	履修対象・ 使用教室 等	フロンティア (選択) ・HR教室
教科・ 科目の 目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
評価 の 観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したリ、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価 方法	＊単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い、〔A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況〕とする。 ＊単元などの観点別評価に基づいて、学習全体の総括的な評価を行ったものを「5段階の評定」とする。								
評価 資料・ 評価 比重 〔100点換算〕	評価資料等		予定回数・内容等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	単元テスト		「節」ごとに実施します。計12回実施予定			50	50	100	
	授業態度・自主課題の提出		問題演習やレポート課題などの取り組み状況、スタディサプルの自主的な演習						
	確認テスト・レポート課題		適宜実施し、その都度、理解度ははかります。			50	50		
	〔観点別配分％〕		〔3観点の比重を％で示しています〕						
月進行 〔計画〕	【単元名】 学習項目名	配当 時間 〔計画〕	学習内容・目標（到達点） など			主な評価資料		評価の重み付け〔◎○〕	
						知・技	思・判・表	態度	
4 5	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式	24	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
6 7	第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	24	第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
8 9	第3章 図形と方程式	20	第3章 図形と方程式 第2節 円 第3節 軌跡と領域			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
10 11	第4章 三角関数	23	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
12 1	第5章 指数関数と対数関数	21	第5章 指数関数と対数関数			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
2 3	第6章 微分法と積分法	28	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 第2節 積分法			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
学習の アドバイス	・数学Ⅱの基礎基本の定着を徹底します。 ⇒基礎基本の定着（知識・技能）なくしては、応用問題や入試問題（思考力・判断力・表現力）に対応できない。ゆえに、教科書レベルの内容の定着に特化します。 ・進学者希望者はスタディサプルの積極的な取り組みや平日講習へ積極的に参加し、実践演習を積むことを強く勧めます。 ・数学は積み重ねの教科です。 家庭学習の習慣が必須となります。 授業では「理解」、家庭学習にて「定着」を心がけてください。								